

Hybrid closed loop 療法により血糖管理を行った1型糖尿病合併妊娠患者の1症例

◎青地 祐¹⁾、久住 裕俊¹⁾、村越 大輝¹⁾、平松 直樹¹⁾
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

<はじめに>

糖尿病合併妊娠での血糖管理目標は厳格な基準が設けられており、胎児の器官形成への影響や、巨大児や肩骨難産などを防ぐために重要である。そのため強化インスリン療法等による厳格な血糖管理を行う必要がある。その中でもリアルタイムCGM付きインスリンポンプ(SAP)は、アラート機能や低血糖時に注入を停止することができるため、厳格な血糖コントロールが可能である。また、2022年1月にCGMの値より基礎インスリン量を自動調整するハイブリッドクローズドループ(HCL)を搭載したインスリンポンプが認可された。

今回我々は、HCLを搭載したSAP療法を使用し、血糖管理を行った糖尿病合併妊娠の1症例を報告する。

<症例>

患者：30歳代 女性 主訴：1型糖尿病
現病歴：20XX年6月に1型糖尿病と診断され、妊娠・出産希望がありSAPを勧められ当院紹介受診された方。

<経過>

妊娠前のHCL機能を用いた推定HbA1c(GMI)は6.5~6.6%であった。妊娠中(8月~翌年4月)は夜間(0時~6時)のみHCL機能を用いて管理したGMIは6.1~6.4%であった。出産後のHCL機能を用いたGMIは6.4~6.6%であった。妊娠前：出産前：出産後の体重は58.1：67.5：61.1、TDD(1日のインスリン使用量)は31~34：37~58：25~36、出産時の胎児は3380gであった。

<考察>

妊娠前・妊娠中・出産後を比較しGMIの大きな変動はなく、1型糖尿病合併妊娠におけるHCL療法の有用性が示唆された。また、CGMのコントロール指標でもあるTBR 4%以下・TAR 25%以下を達成できた。

<結語>

1型糖尿病合併妊娠における眠前~起床間にかけてHCL療法を使用し血糖管理を行った症例を経験した。

今回眠前~起床間の間に使用であるが糖尿病合併妊娠患者におけるHCL療法の有用性が確認できた。

連絡先 054-247-6111 (内線：8174)